

南郷の曲屋

「曲屋」は、沼田市中心部から東へ車で 30 分ほど行ったところにある、川沿いの小さな集落・

南郷にある大きな茅葺き屋根の農家である。この家は 1785 年に建てられ、裕福な鈴木家の邸宅であった。鈴木家の当主は庄屋を世襲する大地主だった。江戸時代（1603～1867 年）には、大名から派遣された役人たちがこの家に泊まって職務を遂行した。

この家の間取りは、役人の接待の義務が影響していると考えられている。L字型の建物は、北

日本の寒冷地の農家によく見られる曲家の様式である。メインの居住スペースの脇には馬を飼うための馬屋と土間の作業場が併設され、厳しい冬でも馬の世話ができるようになっている。

しかし、農家としては異例なのは、馬小屋の反対側にある 2 つの畳敷きの部屋である。これらの部屋は武士の役人が宿泊するのに使われた。身分の高い客は床の間と上段の間がある内間の部屋に泊まり、従者は外側の部屋に泊まった。

居間に最も近い仕事場の隅にある囲炉裏は、家の中心的な要素である。囲炉裏には常に火が置かれ、建物を暖かく乾燥させていた。囲炉裏の煙は部屋や天井を伝って立ち上り、壁を黒くするが、木造建築や茅葺き屋根を腐敗や虫から守った。食事も囲炉裏の上で調理され、鍋ややかんはフックに吊るされていた。

母屋のほか、曲家の敷地内には水車や耐火土壁の蔵が 4 棟ある。ひとつは家宝や重要書類などの貴重品を保管する蔵、他は穀物や農具を保管する蔵である。4 つの蔵のうち最も小さいのが味噌蔵で、味噌や漬物を作つて保管していた。